

平成 28 年度大学改革支援・学位授与機構 国際連携事業実施報告

平成 29 年 3 月 31 日
国際連携連絡会議

I. はじめに

大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」）は、第 3 期中期目標（平成 26～30 年度）を踏まえた以下の国際連携事業に関する主要方針に基づき、近年の高等教育を取り巻く国際的な状況を踏まえながら、海外の高等教育の質保証に関する情報を収集し、調査研究を行い、その成果を国内外に発信している。さらに、海外の質保証機関等との積極的な情報交換や密接な連携による国際的な質保証活動を行っている。

<国際連携事業に関する主要方針>

- ・ 国内外の質保証機関との連携による我が国の評価制度全体の改善と高等教育の国際的な信頼性を高めるための活動を行う
- ・ 大学等との連携による大学等における質保証への支援

機構に設置された国際連携連絡会議（平成 27 年度まで国際連携企画室）は、平成 24 年度よりアクションプランを毎年策定し、研究開発部教員および国際課職員が協働し、国際連携活動を推進している。平成 28 年度においては、以下の 4 つの柱を設定し、柱ごとに活動計画をまとめ、各種活動を実施した。実施にあたっては、毎回の連絡会議において、方針等を協議するとともに、実施状況について確認を行った。また、国際連携連絡会議メンバーや国際課職員が収集した国際的な質保証動向等に関する情報や資料は、国際連携連絡メンバー間で共有し、機構内外に発信した。

平成 28 年度国際連携アクションプランの柱

- (1) **海外の高等教育および質保証に関する情報発信（国内発信）**（実施報告 p.2-6）
- (2) **日本の高等教育および質保証に関する情報発信（海外発信）**（実施報告 p.7-9）
- (3) **共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施**
（実施報告 p.10-12）
- (4) **国際連携にかかる重点的調査研究**（実施報告 p.13）

Ⅲ. 各テーマにおける実施内容

(1) 海外の高等教育および質保証に関する情報発信（国内発信）

アクションプラン

大学等における質保証活動への支援、および我が国の評価機関等における国際情勢を踏まえた高等教育の質保証活動に資するため、海外の高等教育や質保証に係る制度情報や改革等の動向について情報を収集、整理し、高等教育関係者へ提供する。

事業実施総括

(ア) 海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供

海外の高等教育や質保証動向について、「別表」に掲げる調査項目を主眼に置きながら情報収集し、ウェブサイトを中心に得られた情報を記事等にして提供した（大学の内部質保証支援および国際的な共同教育プログラムの質保証の観点を意識）。平成 28 年度は 119 件の記事を掲載、年 305,895 件の国際連携ウェブサイトおよび関連のウェブサイトへのアクセスがあった。

インフォメーション・パッケージに関して、「高等教育に関する質保証関係用語集:Glossary（第 4 版）」（以下、用語集（第 4 版））の冊子を刊行し、オンライン版を公開した。「アジア地域の高等教育分野の質保証システムに関するブリーフィング資料」のベトナム編を作成し、国際連携ウェブサイトに掲載した。

また、海外の高等教育や質保証動向の情報収集のため、国際会議・セミナーや国内会議等へ参加した。

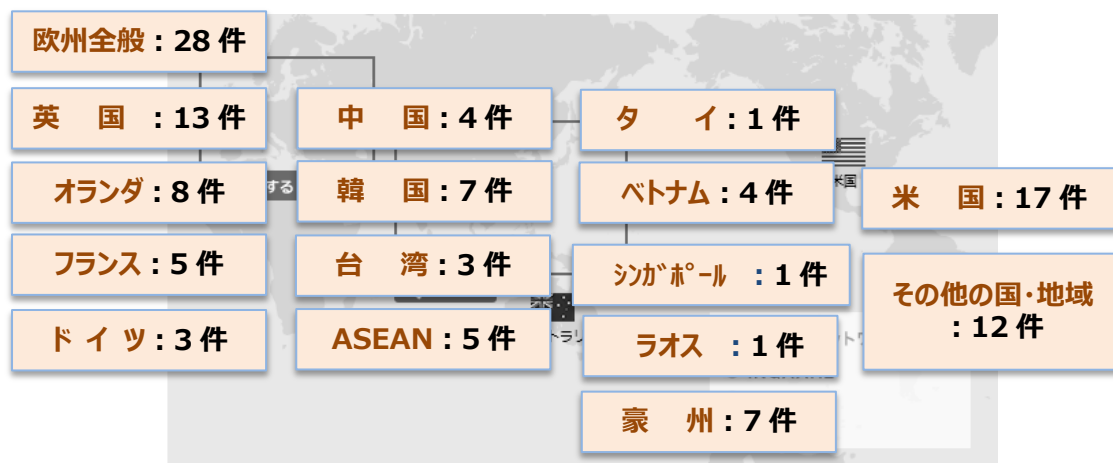
別表 <国・地域別の調査項目> ◎重要度の高い事項 ○キャパシティ次第で取り組む事項

国・地域名	テーマ
中国	◎「高等教育の質の全面的向上に関するガイドライン」の実施状況（機関評価、分野別（プログラム）評価） ◎中外共同運営教育評価の動向 ○CBQAN の活動動向
韓国	◎大学機関別評価認証の動向（評価結果等） ◎大学の国際化評価（留学生受入れ・管理力量認証制（IEQAS））について ○NIC 設立に向けた活動動向
ASEAN 諸国	◎ASEAN 域内における質保証枠組み・資格枠組み構築の動向 ○AIMS を通じた大学間交流（AUN、SEAMEO-RIHED 等）の動向 ○質保証人材育成活動（評価者研修プログラム等）の動向 ○ASEAN 共同体設立に係る各国高等教育の動向
マレーシア	◎MQF レビューについて ○学位・資格の相互認証の動向
インドネシア	◎ASEM（特に ASEMME6 に向けて）の動向（※ASEM 事務局＝インドネシア） ○分野別質保証機関設置の動向
タイ	◎第 4 期 EQA の動向（2016 年～） ○ONESQA の国際連携活動の動向（JD 等） ○タイ高等教育改革の動向
ベトナム	◎質保証システムの概要（レーティング制度による機能別分化を含む） ○高等教育の国際化に向けた取組み
台湾	○第 2 期プログラム評価活動の動向 ○台湾高等教育の国際通用性の向上に向けた質保証の取組み（国際教育評価含む）
香港	◎学位・資格に関する政策や質保証制度の動向 ○質保証機関統合に向けた動向
欧州	◎国際共同教育プログラムの共同評価に関する取組み（「欧州アプローチ」の実践） ◎EQAR や ENQA による国境を越えた質保証活動に関する動き ○欧州ボローニャプロセスの政策議論 ○ASEM 動向 ○ENIC-NARIC による外国資格評価者の能力開発等動向
英国	◎新たな質保証制度導入を巡る動き ◎TEF（教育評価枠組）の動向 ○国際共同教育の質保証に関する動向（特に QAA の質保証について）
オランダ	(NVAO) ◎第 3 サイクルの大学評価制度（2017 年 1 月～） ◎国際化評価の動向（優良事例等） (EP-Nuffic) ◎大学の国際化支援や外国資格評価の取組み
フランス	◎HCERES 発足に伴う新たな評価の状況
ドイツ	◎高等教育質保証システム（ア krediyteshon 制度等）の動向 ◎国際共同教育プログラムの相互認証に係る動向
米国	◎高等教育法改正に関する動き ◎新たな形の高等教育に対する質保証（細分化、コンピテンスペース教育等） ◎CIQG の動向 ○評価機関の学習成果評価の取組み・新たな基準の動向
豪州	◎TEQSA によるリスクベース評価 ◎新たな高等教育基準枠組導入を巡る動き

ウェブサイトを通じた質保証動向記事等の発信

【1-ア）海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供】

海外の高等教育や質保証の動向に関して収集した情報については、海外動向発信サイト「QA Updates-International」に、**海外の動向記事**として適時掲載し、国内向けの情報発信基盤の強化を図った。平成 28 年度の動向記事掲載件数は **119 件**であった。（掲載件数の内訳は下図参照。）



国際的な共同教育プログラムの質保証にかかる情報については、「**共同教育プログラムのための質保証**」ウェブサイトですぐ発信を行っているが、平成 28 年度は、**新規に 1 件**の情報発信を実施した。

>> [共同教育プログラムのための質保証サイト](#)

インフォメーション・パッケージの作成・発信 – 各国の質保証制度にかかる基本情報 –

【1-ア）海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供】

インフォメーション・パッケージにおける新たな刊行物として、平成 28 年 4 月に「**高等教育に関する質保証関係用語集：Glossary（第 4 版）**」を刊行した。さらに、7 月にオンライン版を機構のウェブサイトに掲載した（右：同刊行物の表紙とオンライン版の画像）。



アジア地域における高等教育の質保証に関して、平成 29 年 1 月に新規に作成したベトナムのブリーフィング資料（右：同刊行物の表紙）を国際連携ウェブサイトにて公開した。

>> [ブリーフィング資料掲載ページ](#)



また、「諸外国の高等教育における質保証システムの概要：オランダ」の第 2 版、「諸外国の高等教育における質保証システムの概要：フランス」の第 2 版、「高等教育における質保証システムの概要：英国」の追補資料について、刊行に向けた改訂作業を進めた。

(イ) 国際連携ウェブサイトの改善・充実、広報活動

メルマガ読者を対象に「NIAD-QE 海外高等教育質保証動向ニュース」のメルマガ配信に関するオンラインアンケート調査等を実施し、発信内容の改善・充実につなげた。また、国際連携ウェブサイトの周知活動を積極的に行い、大学関係者等に周知を図るとともに、海外高等教育動向ニュース（メルマガ）の購読者数の増加（平成 27 年 488 名→平成 28 年 847 名）につなげた。ウェブサイトや概要資料の情報発信媒体の認知度を高めるため、主な広報活動として各種会議等でのチラシ配布による広報のほか、教育学術新聞への海外の質保証動向記事の定期掲載を行い、平成 28 年度中に 5 回掲載された。また、平成 27 年 7 月に開始した海外高等教育質保証動向ニュース（メルマガ）の配信について、平成 28 年度は毎月配信（計 18 回）した。

用語集（第 4 版）の普及を目的として広報用チラシを作成し、機構が主催したフォーラムや評価者研修、関係会議で配布したほか、高等教育関係者等にメールで配信するなど、積極的に広報活動を行った。

国際連携ウェブサイトの改善に向けた取り組み

【1-イ）国際連携ウェブサイトの改善・充実、広報活動】

●メルマガ「NIAD-QE 海外高等教育質保証動向ニュース」の配信に関するアンケート実施

毎月配信しているメルマガ「NIAD-QE 海外高等教育質保証動向ニュース」の内容充実及び今後の動向記事作成・発信に役立てるため、メルマガ配信希望者（619 名：平成 28 年 7 月 21 日時点）に対し、質問形式のオンラインアンケートを実施した。

その結果、135 名の回答が得られ、興味・関心のある地域・国やトピックを始めとする配信希望者のニーズを把握した。調査結果を活用し、動向記事作成等に役立てたほか、平成 28 年 12 月配信分のメルマガから、ニーズの高かった地域・国やトピックに関連する質保証用語等の解説を行う「質保証に関するトリビア・豆知識」を導入し、質の高い情報提供に繋がった。



QA Updates-International
トップページ

用語集（第 4 版）の普及に向けた広報活動の強化

【1-イ）海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供】

用語集の普及を目的とした広報物を作成し（右に表紙画像）、大学質保証フォーラムなど各種イベントにて配布するとともに、海外からの来訪者に対して用語集（冊子版）を配布し、認知度向上のための取組を行った。このほか、電子媒体では、機構ウェブサイト上で PDF 版、HTML 版を無料で公開するとともに、国内向けには、機構が定期的に配信している海外高等教育動向ニュース（メルマガ）等で紹介し、海外向けには、国際的な質保証ネットワークである INQAAHE の定期会報で用語集の紹介記事を掲載した。



(ウ) フォーラムやセミナー開催による情報提供

平成28年度は、「質保証、だれが何をどうするか」をメインテーマに大学質保証フォーラムを開催し、大学みずからによるいわゆる内部質保証と、質保証機関による第三者評価の有機的な組み合わせ方について、国内外の事例をもとに議論を深めた。

大学質保証フォーラムおよび海外関係者による講演会・研究会

【1-ウ）フォーラムやセミナー開催による情報提供】

●大学質保証フォーラム

平成28年8月5日（金）に、平成28年度大学質保証フォーラム「質保証、だれが何をどうするか」と題し、一橋講堂（竹橋）にて開催した。プログラムでは、質保証の「主体」である大学の役割にあらためて注目し、大学みずからによるいわゆる内部質保証と、質保証機関による第三者評価の有機的な組み合わせ方について、国内外での事例をもとに議論を深めた。

プログラム前半では、カリフォルニア大学ロサンゼルス校名誉教授の John N.Hawkins 氏及び欧州高等教育質保証協会（ENQA）会長の Padraig Walsh 氏より、それぞれ基調講演が行われた。Hawkins 氏からは、アメリカにおける評価文化の歴史について概観した後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の内部質保証の事例について紹介が行われた。引き続き、Walsh 氏からは、「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）」の沿革、アイルランド質保証機構の事例を基に、外部質保証と内部質保証のバランスをどのように取るべきか等について発表がなされた。



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子

プログラム後半のパネルディスカッションでは、第1部「大学による質保証」において、3名のパネリストより発表がなされた。続く第2部「だれが何をどうするか」では、パネリスト、両基調講演者、同志社大学社会学部教授の山田礼子氏及び武市研究開発部長を交え、活発な議論が展開された。高等教育機関の多様な取組を評価機関はどのようにとらえるべきか、高等教育機関の自己点検・評価をどのように質保証につなげていくべきか等、今後の質保証に関して示唆に富む意見が多数寄せられた。

（２）日本の高等教育および質保証に関する情報発信（海外発信）

アクションプラン

我が国の高等教育の質保証に係る国際的な信頼性を高めるうえで、機構は内外の質保証機関や評価機関と様々な連携協力をすすめることとしている。これらの活動に伴い、機構の行う事業のみならず、日本全体としての高等教育の質保証システム等の情報について、英文により精査し、海外の質保証関係者に対する情報発信を強化する。

事業実施総括

（ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化

海外で開催された国際会議やスタッフ交流において、機構の参加者から発表を行い、日本における高等教育質保証の取組み等について情報発信を行った。また、機構の各事業のニュース記事を英訳し、英文ウェブサイトに掲載した（計 12 件）。

さらに、機構の英文リーフレット改訂版を刊行し、法人統合後の機構の高等教育の質保証における機能や役割について情報発信を行った。このほか、INQAAHE の定期会報に機構の用語集（第 4 版）に関する紹介記事を掲載し、日本の高等教育の質保証について発信を行った。

日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化

【2-ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化】

●機構事業ニュースの海外発信

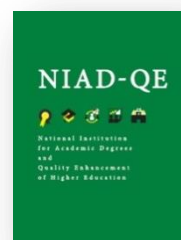
機構の事業の国際的な発信力強化を目的として、「機構ニュース」の掲載記事を英訳し、英文ウェブサイトに掲載した。掲載記事は、評価対象機関や評価者向け研修会、学位授与事業の実績、大学質保証フォーラム、キャンパス・アジアの成果発表、新規刊行物の紹介など、計 12 件にのぼった。

[>> 機構ニュース英文記事](#)

●機構英文リーフレット

法人統合にあたり、既刊の英文リーフレットからデザインを一新するとともに、旧国立大学財務・経営センター業務の追加、旧機構の各事業の更新を行い、改訂版を刊行した。国際会議や海外からの来訪者に配布し、機構の事業概要紹介に活用した。また機構英文ウェブサイトに PDF 版を掲載した。

[>> 機構英文リーフレット](#)



●INQAAHE Bulletin

国際的な質保証機関のネットワークである INQAAHE の定期会報「INQAAHE Bulletin」の 2016 年 6 月号に機構の「高等教育に関する質保証関係用語集：Glossary（第 4 版）」の刊行について紹介し、海外の高等教育質保証関係者に向けて、日本の高等教育の質保証について用語の解説を通じた理解促進に努めた。

[>> INQAAHE Bulletin](#)



国際会議・セミナーでの機構からの発表実績

【2-ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化】

＜平成 28 年度機構からの発表実績と発表タイトル＞

日程・場所	会議名称	発表者	発表テーマ
H28.5.25-5.27 フィジー	APQN2016 総会	岡本理事	<i>'CAMPUS Asia' Joint Monitoring among Japan-China-Korea</i>
H28.9.16-17 インド	Global Summit on Quality Higher Education	土屋幹事	<i>Japan's third phase of quality assurance in the context of international commitments</i>
H28.11.22-24 マカオ	マカオ MPI 主催国際会議（APQN 共催）	井田教授	<i>Data Providing Service of Japanese College and University Portraits</i>
H29.2.27-3.1 バーレーン	INQAAHE2017 隔年次総会	土屋幹事	<i>China-Japan-Korea Joint Quality Assurance for CAMPUS Asia Programs</i> (中国 HEEC との共同発表)
		渋井准教授	<i>An Exploratory Data Analysis of the Indicators and Evidence for Measuring the Internal Quality Assurance System</i> (ポスター発表)
H29.3.26-28	AUN-QA International Conference 2017	森教授	<i>Quality Assurance of Higher Education in Japan: In Search of Sustainable Practices</i>

※上記に加え、台湾 HEEACT 主催 IR 国際会議（H28.11.18-19）にて土屋幹事が主催者からの招聘による講演を実施（発表テーマ：Quality Assurance and Governance of Higher Education Institutions in Japan）。



APQN2016 総会
(岡本理事による発表)



Global Summit on Quality Higher Education
(土屋幹事による発表)

(イ) 機構英文ウェブサイト等の改善・充実

法人統合により機構ウェブサイトのデザインがトップページを中心に一部リニューアルされたことに伴い、英文ウェブサイトの評価事業、国際連携活動ページを全面的に見直し、海外の質保証機関等関係者にとってより見やすいウェブサイトに改修した。

また、「キャンパス・アジア」2次モニタリングの成果発信のため、モニタリング専用ウェブサイトに新たに英文ページを開設した。

機構英文ウェブサイトの改善・充実

【2-イ）機構英文ウェブサイトの改善・充実】

今回改修した機構英文ウェブサイトの「評価事業」、「質保証連携」ページは、平成28年4月にリニューアルされた機構ウェブサイトの日本語版トップ画面とデザインの統一を図り、階層数も最小限とするなど見やすい構造とした。改修した評価事業ページでは機構が行う評価活動を中心に掲載し、日本の質保証や高等教育制度についてはインフォメーション・パッケージのリンクを貼付するなど一新した。新規に作成した質保証連携ページは、既存の国際連携活動を整理したほか、大学ポートレート、質保証人材育成活動、認証評価機関連絡協議会等の活動紹介を新たに掲載した。また、平成28年度は機構の取組みの国際的な情報発信強化に努めるため、新たに機構ニュースの記事を英文化して英文ニュース記事を12件発信した。

[>> 機構英文ウェブサイト](#)



英文ウェブサイトリニューアル版
(例：評価事業ページ)

国際連携ウェブサイトから独立したサイトとなっている「キャンパス・アジア」モニタリングのウェブページを一部改訂し、2次モニタリングの情報を充実させたほか、に平成28年10月発行のモニタリング最終報告書である『CAMPUS Asia Pilot Program Joint Monitoring Report: Useful Tips on How to Design an International Cooperative Academic Program』を掲載した。

[>> 報告書\(英語\)ページ](#)

（３）共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施

アクションプラン

覚書締結機関を中心に、海外の質保証機関と共同のプロジェクトの実施等を通じて相互理解・信頼関係を深めると同時に、我が国の評価制度の改善や大学間交流プログラムの質保証に貢献する。

また、我が国の高等教育への国際的な信頼性を高めるため、国際的な質保証活動に積極的に参画し、関係機関と協力して活動を行う。

事業実施総括

（ア）日中韓連携

平成 27 年度に日中韓の質保証機関が共同で実施した 2 次モニタリングの結果について、主査が中心となり 2 次モニタリング報告書として 10 件のプログラムごとに作成し、非公開の形でコンソーシアム及び関係機関に提供した。また、日中韓の質保証機関が共同で、1 次及び 2 次モニタリングで得られた優良事例を中心とする最終報告書『CAMPUS Asia Pilot Program Joint Monitoring Report : Useful Tips How to Design an International Cooperative Academic Program』の原案を作成し、コンソーシアム側による事実確認及び共同モニタリング委員会での承認を経て確定させた。同報告書は、平成 28 年 12 月に韓国・ソウルで開催された第 1 回日中韓学長フォーラムでの配付したほか、機構ウェブサイトで公表した。そのほか、モニタリング結果を国内外の会議等において発表し広く成果発信を行った。

また、共同モニタリングの経験を基に、モニタリングの原則、実施体制、プロセス、基準、留意事項等を含む共同ガイドラインを作成した。

日中韓質保証機関連携と「キャンパス・アジア」モニタリング

【3-ア）日中韓連携 ―プロジェクトの実施―】

日中韓 3 か国による質保証機関連携は、「キャンパス・アジア」におけるモニタリング活動を中心とし、中国・韓国の質保証機関と協議・調整を図りながら、通年事業として実施した。

●日中韓連携

平成 27 年 4 月に開催された第 6 回日中韓質保証機関協議会（於：中国・上海）での合意事項に基づき、協議会のプロジェクトグループの活動を行った。

●日中韓 2 次モニタリングの成果発信及び共同ガイドラインの作成

「キャンパス・アジア」モニタリングは、10 のパイロットプログラムを質保証の側面から支える日中韓 3 か国の取組として実施している。平成 25 年に各国の質保証機関がそれぞれ 1 次モニタリングを実施し、平成 27 年は日中韓の質保証機関が共通の枠組みを構築した上で、2 次モニタリングを共同で実施した。2 次モニタリング結果は、主査が中心となり、プログラムごとの報告書を作成し、非公表の形でコンソーシアム及び関係機関に提供した。

また、日中韓の質保証機関が共同で、1 次及び 2 次モニタリングで得られた優良事例を中心とする最終報告書『CAMPUS Asia Pilot Program Joint Monitoring Report : Useful Tips How to Design an International Cooperative Academic Program』の原案を作成した。原案は、コンソーシアム側に対して事実誤認確認を行った後、平成 28 年 10 月に実施した日中韓の委員で構成される共同モニタリング委員会において承認され、確定した（右図：同報告書表紙）。同報告書は、平成 28 年 12 月に韓国・ソウルで開催



された第1回日中韓学長フォーラムでの配付したほか、機構ウェブサイトでの公表している。そのほか、モニタリング結果を、国内外の会議等において発表し広く成果発信を行った。

また、共同モニタリングの経験を基に、モニタリングの原則、実施体制、プロセス、基準、留意事項等を含む共同ガイドラインを作成した。

（イ）欧米やアジア太平洋との連携

海外の覚書締結機関を中心として、これまで築き上げた関係を基盤に、共同プロジェクトや人的交流、連携した取組みを展開した。フランス HCERES とは、HCERES 会長ミッシェル・コスナー氏との懇談（平成 28 年 6 月 24 日開催）を行った。また、豪州 TEQSA、香港 HKCAAVQ、台湾 HEEACT と、業務に関する情報・知見の交換を目的としたスタッフ交流（平成 29 年 2 月～3 月）を実施した。

さらに、マレーシアのMQAとは、評価（質保証）プロセス等についての比較調査プロジェクトに関して、ビデオ会議にて合同専門委員会（第4回：平成28年8月）を行った。

この他にも、覚書締結機関や海外の交流機関とは、APQN や INQAAHE 等の国際的ネットワークの会議をはじめ、高等教育の質保証に関する国際会議で、情報交換や連携協力にかかる協議を行い、人的ネットワークの拡大とともに、すでにある連携体制の強化を図った。

●フランス HCERES 会長が来訪

2016 年 6 月 24 日（金）に、フランスより、覚書に基づく両機関間の交流の一環として HCERES 会長のミッシェル・コスナー氏が機構を訪問した。来訪時には、機構の事業概要について説明後、コスナー会長より、フランスにおける高等教育の現状や HCERES が行う評価活動について説明があり、両機関の質保証に関する取組み状況について相互理解を深める貴重な交流の機会となった。



フランス HCERES 会長が来訪

●機構スタッフによる豪州 TEQSA 訪問プログラム

機構と TEQSA の覚書に基づく協力事業として、TEQSA 職員とのスタッフ交流プログラムを平成 29 年 2 月 5 日（月）から 10 日（金）の 5 日間、TEQSA の所在する豪州メルボルンにて実施し、機構教職員が参加した。プログラムでは、TEQSA のほか、職業教育訓練の質保証を所管する豪州技能質保証機関（ASQA : Australian Skills Quality Authority）、公立大学である Swinburne 工科大学、オンライン教育プログラムの開発を行う Swinburne Online や公立の職業訓練教育機関である Holmesglen Institute の 4 機関を訪問し、豪州における高等教育および職業教育の質保証の状況やオンライン教育などについて情報収集および意見交換を行った。



機構スタッフによる TEQSA 訪問プログラム

●機構・マレーシア MQA 合同専門委員会：評価（質保証）プロセス等についての比較調査プロジェクト

平成 28 年 8 月 30 日、MQA と第 4 回のオンラインミーティングを行った。ミーティングでは、これまでの調査を基に機構と MQA の実施する比較調査報告書の完成に向けて意見交換を行い、報告書を踏まえた今後の連携についても意見交換を行った。

●機構スタッフによる香港 HKCAAVQ 訪問プログラム

機構と HKCAAVQ の覚書に基づく協力事業として、HKCAAVQ の職員とのスタッフ交流プログラムを平成 29 年 3 月 20 日（月）から 24 日（金）の 5 日間、HKCAAVQ の所在する香港にて実施し、機構職員が参加した。プログラムでは、機構の評価制度を紹介するとともに、HKCAAVQ



機構スタッフによる HKCAAVQ 訪問プログラム

の行う評価制度および資格審査等について情報収集を行った。また、VTC SHAPEにて行われた、英国の学位を提供するプログラムに対するアクレディテーション審査の訪問調査にオブザーバーとして同行し、情報収集を行った。

●機構スタッフによる台湾 HEEACT 訪問プログラム

機構と HEEACT の覚書に基づく協力事業として、HEEACT の職員とのスタッフ交流プログラムを平成 29 年 3 月 13 日（月）から 17 日（金）の 5 日間、HEEACT の所在する台湾の台北市にて実施し、機構教職員が参加した。プログラムでは、日本の高等教育制度、質保証制度を紹介するとともに、台湾の高等教育政策の動向、質保証制度、評価実務について情報収集及び意見交換を行った。また、輔仁大学を訪問し、当該大学の内部質保証制度について情報収集を行った。

●法人統合記念式典での英国 QAA、韓国 KCUE からのビデオメッセージ

平成 28 年 8 月 4 日（木）の法人統合記念式典および 8 月 5 日（金）の大学質保証フォーラムにおいて、英国高等教育質保証機構（QAA）の理事会会長である Chris Banks 氏と、韓国大学教育協議会大学評価院（KCUE-KUAI）院長である Joon Yul Choi 氏からのビデオメッセージを紹介した。両機関からは、新法人発足への祝辞が述べられるとともに、覚書締結機関として今後も機構との連携を深めていきたいとのコメントが寄せられた。

（４）国際連携にかかる重点的調査研究

アクションプラン

平成 28 年度は、我が国の大学等における学位および質保証制度にかかる国際通用性を確保していくための重点的調査研究として、平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 年間、文部科学省補助事業として実施してきた 1) 東アジアにおける国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査および 2) 国際的な学生移動（モビリティ）に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査の成果を機構の事業や調査研究に発展させるための検討や活動を行う。

各調査の趣旨および事業実施総括

（ア）国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査 （東アジア調査）

● 調査の趣旨

平成 27 年度までに実施した「東アジアにおける国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査」において開発した共同教育プログラムの「チェックリスト」の内容をさらに検討・精査し、「チェックリスト」の改良および「チェックリスト」のツール化、プログラムのデザインに関する指針の原案（手引書の改訂案）作成を目指す。

● 平成 28 年度の実施総括

国内大学を対象にしたオンラインアンケート調査を開発・実施し、国内の大学の共同教育プログラムの担当者から 18 件の回答を得て、集計・分析に着手した。18 件のうち、集計結果を希望している大学には結果を取りまとめた個別報告書を送付するとともに、調査内容の補強のためのヒアリングを実施するための調査依頼を行った。これと並行して、東南アジアの質保証機関を中心とした 7 機関を対象に「国境を越えた高等教育（Cross-Border Higher Education）」および「チェックリスト」に関するヒアリング調査を実施した。

（イ）学生移動（モビリティ）に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査（モビリティ調査）

● 調査の趣旨

平成 25 年度から 3 年間実施した同調査のフォローアップとして、国際的な学生移動や外国資格評価に関する海外動向の調査・情報収集をはじめ、国際的な学生移動の文脈で英文化が必要な日本の高等教育情報の収集・整理等を実施する。

● 主な成果

同調査報告書の要約版を作成し、機構ウェブサイトに掲載した。国際的な学生移動や外国資格評価に関連する国内外動向収集の一環として、UK NARIC 年次会合に職員 2 名が参加したほか、UK NARIC が開講する「eTraining」を受講し、外国資格評価を巡る基礎知識を深めた。また、東洋大学主催の外国資格評価ワークショップや他機関主催の入試改革関係フォーラムに参加した。

海外動向の発信としては、高等教育資格やジョイントディグリーの認証に関する政策などを記事にして QA Updates-International に掲載した。

本文に出現する頭文字語の正式名称（アルファベット順）

ACA（イー シー エー）

Academic Cooperation Association
（欧州学術協力協会）

AERES（アエレス）

Agence d'évaluation de la recherche et de
l'enseignement supérieur
（フランス研究・高等教育評価機構）
[英：Evaluation Agency for Research and Higher Education]

AIMS（エイムス）

ASEAN International Mobility for Students
Programme（ASEAN学生交流プログラム）

APQN（エー पी キュー エヌ）

Asia-Pacific Quality Network
（アジア太平洋質保証ネットワーク）

ASEAN（アセアン）

Association of South-East Asian Nations
（東南アジア諸国連合）

ASEM（アセム）

Asia-Europe Meeting（アジア欧州会合）

BAN-PT（バン ピー ティー）

Badan Akreditasi Nasional Perguruan Tinggi
（国立高等教育ア krediteーション機構）
[英：National Accreditation Agency for Higher Education:NAAHE]

CBQAN（シー ビー カン）

Cross-border Quality Assurance Network
（国境を越えた教育（クロスボーダー教育）の質保証のためのネットワーク）

CHEA（チェア）

Council for Higher Education Accreditation
（米国高等教育ア krediteーション協議会）

CIQG（シー アイ キュー ジー）

CHEA International Quality Group
（CHEA 国際質保証グループ）

DQR（デー クー エル）

Deutscher Qualifikationsrahmen
（ドイツ資格枠組み）

ECA（イー シー エー）

European Consortium for Accreditation in higher
education（欧州高等教育ア krediteーション協会）

EQAR（エィカー）

European Quality Assurance Register for Higher
Education（欧州高等教育質保証機関登録簿）

GAC（ジー エー シー）

German Accreditation Council（ドイツア krediteーション
協議会）

HCERES（（アッシュ）セレス）

Haut conseil de l'évaluation de la recherche et de
l'enseignement supérieur（研究・高等教育評価高等審議会）

HEEACT（ヒーアクト）

Higher Education Evaluation and Accreditation
Council of Taiwan（台湾高等教育評鑑中心基金会）

HKCAAVQ（エイチ ケー シー エー エー ブイ キュー）

Hong Kong Council for Accreditation of Academic and

Vocational Qualifications（香港学術及職業資歴評審局）

IEQAS（イー カス）

International Education Quality Assurance system
（外国人留学生受入・管理力量認証制）

INQAAHE（インクアヘ / インクアヒ）

International Network for Quality Assurance Agencies in
Higher Education（高等教育質保証機関の国際ネットワーク）

KCUE（ケー シー ユー イー）

Korean Council for University Education
（韓国大学教育協議会）

MQA（エム キュー エー）

Malaysian Qualifications Agency
（マレーシア資格機構）

EP-Nuffic（イー ピー ヌフィック）

（旧 Nuffic: Netherlands Organization for International
Cooperation in Higher Education（オランダ高等教育国際協
力機構））

NIC（エヌ アイ シー）

National Information Center（ナショナル・インフォメーション・センター）

NVAO（エヌ ブイ エー オー）

Nederlands-Vlaamse Accreditatieorganisatie
（オランダ・フランダースア krediteーション機構）
[英：Accreditation Organisation of the Netherlands
and Flanders]

OECD（オー イー シー ディー）

Organisation for Economic Co-operation and
Development（経済協力開発機構）

ONESQA（オネスカ）

The Office for National Education Standards and
Quality Assessment（全国教育水準・質評価局）

QAA（キュー エー エー）

Quality Assurance Agency for Higher Education
（英国高等教育質保証機構）

QF（キュー エフ）

Qualifications Framework（資格枠組み）

TEQSA（テクサ）

Tertiary Education Quality and Standards Agency
（オーストラリア高等教育質・基準機構）

UMAP（ユー マップ）

University Mobility in Asia and the Pacific（アジア太
平洋大学交流機構）